

2023 年度 デイサービスひろば 事業所における自己評価結果（児童発達支援）  
 公表 2024 年 2 月 10 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員配置数は適切である	○		・少ないと感じる日もあるが、その日の活動内容、スケジュールを工夫し、目的のある支援を行っている	・出勤する人数によっては少ない ・十分な配置ができています
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・パーティションを活用し、エリアを明確に仕切って区別することで、何をやる場所なのかを、明確にすることを工夫している	・引き続き適宜対応していく
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動空間の変更は、皆で相談し対処している	・生活空間（室内）は清掃しているが、玄関周りが不十分である。 ・夏場の害虫対策として、網戸の張替えを予定している
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・クロス SWOT 分析を通して、目標を立て、エリアの構築を行った ・支援計画を軸に、ケース担当と児発管が中心になって目標設定と振り返りを行っている ・気づきを全員で把握する時間があるので、取組やすい	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向などを把握し、業務改善につなげている	○		・年に一度アンケート調査を実施している	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	○			・改善策を全スタッフで考えて、対応策に沿って対応するようにしている
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・オンライン研修を定期的に行っている ・コロナがら類になり、対面での研修も	

				再開している	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	・個別支援会議で話し合った上で決めている	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	・支援に入る前に、支援計画を確認している ・活動が始まる前には、支援計画（長期目標、短期目標）に目を通し、目的を明確にし、支援を行っている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	・個別の活動や集団での活動、対大人や対子どもなど、どのような活動がよいか話し合っている	・各スタッフが意見を出し合って、プログラムに反映させている ・引き続き年間計画をたてていきたい
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	・毎回スケジュールを変更している ・固定化されないように、スケジュールを見返しプログラムを作成している ・作成者を定期的に変え、固定化されないよう工夫している	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	・活動前にどの児童を担当するか話し合っている	・必要に応じて行っている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・保護者からの話も共有している	・気づいた点、次回どうしていく等話し合っている

	①9	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との会話も記録に残している</li> <li>・記録に沿って、活動の目星をつけている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回記録をつけている</li> <li>・活動が終わった後、目標に対してどういった支援を行ったか、その時の様子を記録している</li> <li>・長期目標、短期目標に対しての取り組みの記録をしている</li> </ul>
	②0	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と日程調整し、モニタリングを行っている。</li> </ul>	
関係機関 関係 保護者との 連携	②1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	②2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	②3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもなども支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童がいない</li> </ul>	
	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童がいない</li> </ul>	
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、園と電話、または訪問をし、情報共有と相互理解を図っている</li> </ul>	
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を通じて、支援の流れや、特性への配慮を伝えられるようにしている(この部分を重視)</li> <li>・保護者に個別支援計画を学校の担任との共有を提案している</li> </ul>	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部のスーパーバイザーに助言を頂いている</li> </ul>	
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある		○		
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等は積極的に参加している		○		
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動中の様子を見てもらいながら、課題や家庭での関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と共有するためには、引き続き、個別の対応が必要だと思う</li> </ul>

				方などについて共有できるように努めている	
	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要だと思われる方には、活動中にペアトシの視点で助言している</li> <li>・ペアトシの観点をもって、適宜アドバイスし、結果を追っている</li> <li>・必要だと思う家庭には、個別でセッション、その他活動中や会議の際に伝えている</li> </ul>	
保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」と示しながら支援内容の説明をおく内、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談があった際には対応している。必要な場合は別途事業所内相談支援で時間を設けている</li> </ul>	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回茶話会を実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会の位置づけを明確にしていきたい</li> </ul>
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳アプリ、電話にて相談があれば対応している</li> <li>・相談や申し入れがあった際は、スタッフ間で情報共有している</li> </ul>	
	③⑦	定期的に会報等と発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人広報誌を発行し、ひろばの記事も掲載している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろば独自では定期的な会報を発行していないので、連絡帳アプリを活用して、情報の提供をしていきたい</li> </ul>
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語コミュニケーションが難しい利用者に対しては、絵カードを用いて、本人が理解できるよう配慮している</li> </ul>	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		
	非	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニユア	○	

常時等の対応		ル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している				
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・1ヶ月に1回実施している	・定期的に地震が大雨、火災を想定した避難訓練を実施している
	④3	事前に、服薬や予防接種でんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされている		○	・医師ではなく保護者に確認を取っている ・保護者からの情報を基に対応している	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・会議等で共有している	
	④6	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適正な対応をしている	○		・定期的に研修や本の読み合わせを行っている ・年に1度講師を招き、研修を実施している	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・過去にも対象児童がいない ・記録票の準備はしている	